

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立岩野田北小学校

校長名 鬼頭 利成

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域における、めざす子ども像の共有と、その実現に向けた教育課程を編成及び実施する。 コンパスカリキュラムを活用し、単位時間において、効果的にICT機器を活用した教育課程を実施する。 学校のデジタル環境を充実させ、職員が共通理解を図り、教育DXを推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の学校評価アンケートの結果を受け、保護者や地域とめざす子ども像を共有し、子どもたちを支援することができた。 コンパスカリキュラムを活用し、効果的にICT機器を活用した教育課程を実施することを学校の研究主題に設定し取り組んだ。 職員が共通理解を図り、教育DXを推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> 出席停止で登校できない児童がオンラインで学習をしている様子が見られたり、タブレット端末を利用し、それぞれの学級の授業をしたりするなど工夫された授業をされるなど大いに活用しており、子どもたちの学習効果も上がっていると感じる。また、職員研修も積極的にやっているようでよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もコンパスカリキュラムを用いながら、タブレット端末を中心とした効果的なICT機器を活用し、職員全員が共通理解を図り、教育効果の向上を図るようにする。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 中学校区で連携し、登下校等地域におけるあいさつに重点を置いた発達段階に応じた指導を継続する。 地域のこども園長を学校運営協議会委員に位置付け、幼保小連携に基づく活動の発展、充実を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は幼保小交流会や小中交流のあいさつ運動など連携を図った活動ができた。また、家庭・地域・学校で元気よくあいさつする姿が見られた。 今年度も学校運営協議会委員には、授業参観をしていただき、直接子どもの姿を観て、助言を頂いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域・学校が共通理解を図り、児童のあいさつを高める取組ができた。その結果、地域でのあいさつの様子や学校評価の値もよくなっており、評価できる。あいさつは、子どもから大人にするものではなく、大人が子どもにするものである。大人が望ましい姿を見せていくことで地域のつながりを深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、向上したあいさつの姿を、次年度も継続できるよう、児童会を中心とする子どもたちの自主的な取組を、保護者と共に支えていく。また、手本となる、大人のあいさつの重要性(家庭や地域、職員)を年間を通して行う。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 専門能力スタッフやコミュニティ・スクール等の地域人材を積極的に活用する。 いじめ対策について、校長、いじめ対策監のリーダーシップのもと、地域や家庭と連携を密に図り、即日対応する。 生命の尊厳の理解を深める学びを推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナの制限がなくなりコミュニティ・スクールの人材や学習ボランティア等を積極的に活用し、地域コミュニティと協働し児童の指導にあたることができた。 校長、いじめ対策監のリーダーシップのもと、組織的に迅速な対応を取ることができ、即日解決に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域が連携し、児童を指導できている。 いじめは絶対にしてはいけないという気持ちが児童に定着し、職員集団もいじめ事案を即日解決することや、子どもに寄り添う姿勢が徹底していることが感じられる。職員も児童もいじめに対する意識が高いと感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も学校・家庭・地域でめざす子ども像を共有し、様々なリソースを活用しながら指導にあたり、積極的に学校運営に参画してもらい、チーム学校を実現する。 児童自身が「いじめを解決する力」を身に着けるように指導していく。 引き続き、生命の尊厳の理解を深める学びを推進する。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域と連携を図り、様々な非常事態等における「自分の命は自分で守る」ことの意識を醸成する。 緊急時の教職員の共通理解、共通行動を徹底する。また、地域組織との連携の在り方の見直しを図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や感染症による学級閉鎖での引き渡しや大雪による休校などがあり、必要に迫られた際の下校や引き渡しを安全に行うことができた。 「自分の命は自分で守る」を合言葉に火災や自然災害、不審者対応などの共通行動の徹底に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や大雪などの災害対応について、家庭と連携して安全に下校や引き渡しができたことがよかった。さらに、地域との連携を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年に一度行う、中学校区で連携した引き渡し訓練の実施に向けて、中学校区の小中学校と連携をさらに図っていく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 管理職や校務主任を中心として、安心・安全な教育環境のための点検整備の確実なチェックと校務員との連携を図る。 教育効果を上げるための適切な予算執行を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校務員、校務主任と連携を図り、毎月の安全点検結果に基づき、子どもの安全にかかわる箇所について、迅速に修繕を行うことができた。 児童の教育に還元できる効果の高いものを優先にした予算執行を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの安心安全な学校生活のために、安全点検及び修繕ができています。また、教室や廊下の整理整頓がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、各教科・指導部会から出された予算要望について、企画委員会で検討しながら優先順位を検討し、決定していく。 コミュニティ・スクールの予算案についても、学校運営協議会や支援推進委員会において丁寧に説明し、適切な予算案を作成する。

HPアドレス: <http://gifu-city.schoolcms.net/iwanodakita-e/>